

VII 飼料作物

これから播種を行う場合は、栽植密度を確保するため、播種量をやや多くし、通常より深めに播種し、鎮圧を強めに行う。

寒地型牧草（オーチャードグラス・トールフェスク等）主体の草地については、夏季の過放牧、過度の刈りや短い間隔での刈取りは、夏枯れを助長させるため、貯蔵養分の消耗を軽減して草勢の維持に努める。

とうもろこし、ソルガム等の飼料作物については、耐干性は強いが、極端な水不足条件下では硝酸塩濃度が高まるため、給与に当たっては、飼料分析により硝酸塩濃度を確認しながらの給与に注意する。